

明倫ニュース30号の足跡

平成14年5月20日に創刊号を発行して以来、遂に30号に至りました。

改めて各号を振り返りますと、多くの方々に協力を賜りましたことに感謝を申し上げます。明倫ニュースは、まちづくりの情報を基本に、各団体の活動、イベント情報などをリアルタイムにお伝えすることを目的としていますが、真の目的はニュースを通じて明倫地域の文化を深く知って頂き、『まち』を大切にする心、地域を愛する心を持っていただきたいというのが本音です。年2回（7月・2月）ではお伝えできないことが数多く、なんと3回に亘りたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

広報委員長・長谷川明

明倫ニュースの主だった記事を挙げてみました

明倫学区のプロフィール 創刊号

連載・町内探訪 2号

きつすばめへん明倫 4号

連載・夜話の座 5号

銚子の道プロジェクト 7号

明倫インシジョン紹介 7号

マンションに関する調査報告 8号

まちづくりのシンポジウム 9号

第二回ペトロフピアノ演奏会 9号

地区計画の方針 11号

まちづくりの目標と方針決定 特別号



連載・明倫人 14号

第一回めいりんパーティー 16号

消防団整備完了 17号

連載・向こう三軒両なり 18号

オープン・ザ・自治連 20号

ペトロフ修復記念演奏会 21号

第二回明倫学区プロフィール 23号

マンション一斉避難訓練 24号

明倫インシジョンネットワーク設立 26号

明倫地域景観協議会認定 29号

*各記事については明倫ニュースのHPのバックナンバーから見られます。

「競争から共創」の社会へ

井上成哉

今から4年前、3・11東北大地震が起これ「絆」の必要性が求められ、同時に「競争社会から共創社会」への意識転換を求める言葉が、メディアでもよく耳に入るようになった。

そして同時に今年の秋にも、18歳から選挙権を持ち、投票ができる時代になる。高齢化時代を迎え、これからは若い人たちが、自らの投票行動によって、自らの社会を創っていく良い機会が与えられる。

私達の明倫学区も6月1日から制定された「地域景観協議会」制度によって、地域にふさわしい建物、看板、景観を地域住民自らで考え、建築主と共に協議しながら、街並み景観を創っていく時代となった。

戦後70年、戦災に会わなかった京都まちなかで、経済競争によって、乱雑な建物や看板によって壊されていった歴史の街並み景観の再建が、ようやく地域の人の思いと、話し合いの中で、共になされようとしている。

ただ、都市景観の良しあし、好き嫌いは人によって様々な意見があるのは確かだ。またそれぞれ地域ごと、その地域独特の雰囲気、街並み景観も形づくられてきた。私達の地域のより良き景観とは……を地域の人が共に考え、話し合いながら形づくる「コミュニティ」が形成されれば、これからの若い人々にも魅力ある明倫地域が残されていくのではないだろうか。

行政による「上から目線」の都市計画から、住んでいる地域の人々の居住実感、安心して住み続けられる地域、次世代に伝えていける景観を残していきたいものだ。

明倫ニュース30号！

小島富佐江

発行30号一おめでとーございます。ひとつい何かを言われ、これまでの「明倫」を読み返してみました。その時々どんなふうにこの町が動いていたのか、いろんな方々が明倫学区のために尽力されていることがよくわかりました。良い思い出もありますが、まだまだこれから、いろんな取組、町の動き、人の動きをしっかりとニュースに取り上げ学区みんなが同じ思いを共有でき

るようになっているのが、「明倫」ニュースの使命だと思えます。およばずながらちょっとだけでも協力できたら良いなあと考えております。ニュース発行には大変な手間と時間がかかります。取材原稿、編集など、編集長の長谷川さんのお力がなければ30号までたどり着けなかったのだと思っています。学区のお世話役の方々の協力にも感謝しながら、明倫の知恵袋であるニュースを読んでいます。

祝 明倫ニュース 30号

「明倫に想う 商いと文化と景観と」

露木里也子（玉蔵町）

明倫では人が適度な距離感をもって集う。この大人の「コミュニティ」のありかたは、室町時代より続く自治とともに成熟した古都ならではの文化だと教わり、感心するばかりである。

その舞台がサッパリと新しい公民館などではなく、風格ある明倫小学校を筆頭に、古くから地域に残されてきた貴重な建物であるからこそ、相乗効果でより豊かな時間を過ごすことが出来る。

ただ古いから良いのではなく、建築当時を起点として現在進行中の、長い時間と人の暮らしが育てたもの、それが凝縮されて詰まっているから面白いのだ。この魅力を新たに創出しようとして、なかなか出来るものではない。激動の時代を経て、守り維持されてきた、先人と地域の方々にあらためて感謝したい。

私が子供の頃は既に、町家がビルの間に点々と残る風景が当たり前となっていた。今またマンションが次々と建設され、経済が風景を塗り替えていくスピードは凄まじい。明倫には、商いが風格ある都市景観を形づくってきた歴史がある。

自由投稿

「各地のお祭りを楽しむ会に参加して」

赤井又三郎 鯉山町



「ギョーシンギョーシン」と車輪を軋ませながら巡行する山車を間近で見学。お祭りは当事者にとって、年に一度の「ハレの日」です。まつり見学もそのことを熟知して接すると、当事者も心よく対応していただけた話を楽しめます。

10年前に発足した「京のまつり研究会」は「祭りをもつと元気に」「愛好者の研究会を結成」と京都新聞にも掲載され当初まつり好きな人三十名で始まり、現在会員が約百名近く登録されています。

毎月、京都府下をはじめ、全国の祭りや祭事を今までに1112回見学して、ま

つりを楽しんでおります。各地には素朴な祭りもあり、巡行中でも話しかけると気さくに應對していただき、「人出が足りない」「修理の費用を工面するのに困っている」とか「この祭りの山車の車輪を見てほしい」と教えてもらいながらの見学会。お祭りの説明を聞いておいしい料理に舌鼓を打つのも楽しみです。見学会には約20〜30名が参加されチャーターバスや新幹線等を利用して、日帰りや遠方では一泊して、お祭りを楽しむ会です。年に2回見学者のレポートや特集記事を掲載した「まつり通信」を発行、祇園祭関連の展示会やミーティング会等も開催しております。切り絵・細密画で楽しむ「京のまつり・年中行事」を刊行し京都府下のお祭りを紹介。いっしょに「ハレの日」を享受しましょう。

★イベントREPORT★

運動会

10月11日



めいりんフェスタ 11月15・16日

ダンスナイト・作品展・歴史コント「祇園祭の始まり」



めいりんのもちつき 12月6日

成人式



新成人4人を囲んで 1月12日
八坂神社にて